



共生社会に向けて、対話のある“合理的配慮”とは？



2024年
9月23日 月・休 14:00 - 17:00

会場 | 国立新美術館 3階 講堂
(東京都港区六本木7-22-2)

主催 | 独立行政法人国立美術館
国立アトリサーチセンター (NCAR)

定員 | 150人 (要事前申込、応募多数の場合は抽選)

参加 | 参加無料

本シンポジウムはOKETA COLLECTIONのご支援を受けて開催します。



SCHEDULE スケジュール

国立アートリサーチセンター（NCAR）は、“アートをつなげる、深める、広げる”をミッションとし、アートを通して誰もが新しい価値や可能性を見出せる未来をめざして様々な研究や事業を行っています。このたびは「美術館のアクセシビリティ」をテーマにシンポジウムを開催します。今日の共生社会において、美術館はすべての人びとに向けて広く開かれ、多様な人びとが利用しやすい状況を作る工夫が求められています。今年4月に施行された改正障害者差別解消法では「合理的配慮」の提供が全事業者に対し義務化されました。障害のある人と美術館などの事業者が、各々の状況やニーズを共有して対応策を講じ、アクセシビリティの確保へと導くのが「合理的配慮」です。本シンポジウムでは、美術館の現状を踏まえながら、対話のある合理的配慮を実現するための要はどのようなことであるかについて、美術館の人たち、障害のある人たち、そしてそれらを繋ぐ中間支援組織であるNPO団体の視点も交えて共に語り合います。

14:00

開会挨拶

片岡 真実(NCARセンター長)

趣旨説明

鈴木 智香子(NCAR研究員)、伊東 俊祐(NCAR客員研究員)

14:30

ケーススタディ（事例発表）

進行役：稲庭 彩和子(NCAR主任研究員)

1. 見えない方とともに —— 京都国立近代美術館

松山 沙樹(京都国立近代美術館 研究員)

光島 貴之(美術家・鍼灸師)

2. 聞こえない方とともに —— 森美術館

白木 栄世(森美術館ラーニング・キュレーター)

栗原 剛(森美術館手話ツアー参加者)

3. 外出が難しい方とともに —— みんなでミュージアム

柴崎 由美子(NPO法人エイブル・アート・ジャパン代表)

カミジヨウ ミカ(アーティスト/「みんなでミュージアム」参加者)

リフレクション（ふりかえり・意見交換）

休憩

15:50

パネルディスカッション

「対話のある合理的配慮の鍵は何だろう？」

日比野 克彦

(東京藝術大学学長、障害者文化芸術活動推進有識者会議 座長)

その他ケーススタディ登壇者など

17:00

閉会



REGISTRATION 申し込み



詳細・申し込みは
NCARサイトから

受付期間

：2024年 8月2日(金) ~ 9月2日(月)

※申し込み者多数の場合は、抽選のうえ9月6日(金)までに結果を申し込み者全員にお知らせします。

<https://ncar.artmuseums.go.jp/events/other/post2024-1396.html>

ACCESS アクセス

国立新美術館 3階 講堂

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

※会場への行き方は、国立新美術館のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.nact.jp/information/access/>

CONTACT 問い合わせ

NCARシンポジウム事務局

(株式会社日本旅行 公務法人営業部内)

✉ メール：ncar_symp@nta.co.jp